

名古屋芸術大学グループ 通信

12
February
2010

【特集】
より広い視野を
地域・文化への貢献を
社会との繋がりを感
主役性を向上させる

Feature
学外授業

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG

チャンスは逃さないように
野口晶子

NUA-STUDENT

「人が大好きなので」
音楽学部 音楽文化創造学科
音楽ビジネス・ステージマネジメントコース 3年
渥美沙弥香
「実習で一層興味がわきましたね」
音楽学部 音楽文化創造学科 音楽教育コース 4年
野呂恵里奈

News/topics

ニュース&トピックス

大学／大学院

■ 芸大祭2009を終えて…
■ 生涯学習大学公開講座

音楽学部

■ 第32回 定期演奏会が行われました
■ 第2回 トランペット専攻生によるクリスマスコンサート
“スタ☆コン”が行われました
■ 「ナゴヤまちかどアンサンブル」に
学生達が出演しました!

人間発達学部

■ 人間発達研究所子育て支援講座
「親子で遊ぼう」が行われました。

美術学部／デザイン学部

■ ガラス教育機関合同会議「GEN」2009
名古屋芸術大学で開催!!
■ 旧加藤邸アートプロジェクト2009
一記憶の庭で遊ぶーが行われました
■ 2009デザイン学部特別客員教授
河野英一氏ワークショップが行われました

グループ校特集／名古屋保育・福祉専門学校

■ 基礎学力の向上を目指した介護福祉士養成教育を考える
名古屋保育・福祉専門学校 介護福祉科教員 佐藤良博

コラムNUA

色 雑 感

デザイン学部教養部会 教授 長谷川勲一

Master Artist

マスターアーティスト

「拘り」を持たない
音楽学部 音楽文化創造学科 音楽療法コース 講師
伊藤孝子

Information

インフォメーション

■ 2010年2月～4月までの
主な行事・イベントスケジュール
■ 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■ 名古屋芸術大学／大学院：
音楽研究科
美術研究科
デザイン研究科
学部：音楽学部
美術学部
デザイン学部
人間発達学部
■ 名古屋保育・福祉専門学校／
保育科 介護福祉科
■ 名古屋芸術大学附属クリエイティブ幼稚園
■ 滝子幼稚園



Feature

学外授業

より広い視野を
地域・文化への貢献を
社会との繋がりを感じて
主体性を向上させる

本学では、通常の講座だけでは得ることのできないことを、校外に赴き実際に体験することのできる学外授業を取り入れています。夏休みや春休みなどの長期の休講時はもちろんのこと、通常のカリキュラムの一部に取り入れるなど、さまざま形で学外授業は実施されています。学生にとって貴重な経験になるに加え、協力していただく地域社会や企業への貢献も、少しずつですが、実を結んできています。今回は、学外授業についてご紹介いたします。

▶ 学外授業について～よりリアリティの高い経験を～



現在では、全学部合わせて120くらいの学外授業が行われています。

—学外授業の目的について教えてください。

大学学内だけでは経験できないことを学生たちに提供しようということです。リアリティの高い体験・授業を目的としています。実社会で役立つ知識や技術ということを鑑みると、実際に経験してみなければわからないことはたくさんあります。それぞれの専門領域の中でリアリティの高い体験をしてみようと考えています。

—学外授業はどんな風に行われていますか？

スタイルとしては、柔軟に行われています。私が担当するスキーやスノボなどのスポーツ実習のように集中授業の形もあれば、通常の授業の一コマとして、例えば半期でいえば15週くらいの授業がありますが、その一コマでどこかへ出かけて行くというスタイルもあります。基本的には授業担当の先生方にゆだねられています。

—先生の場合、スポーツ実習のほかには、どんな授業を受けることができますか？

教養講座の場合には、教養ならではの形式として異なった専門領域の講師複数人が集まって

菅嶋 康浩

学生部長 デザイン学部教養部会教授

コーディネイトすることで幅の広い授業を行っています。長野県の本庄村に「本庄セミナーハウス」という研修センターがありますが、そこを利用し本庄村の地場産業を見てその地域の歴史を知ること体験してもらっています。狙いとしては、教室では体験できないような「同じ屋根の下で、同じ釜の飯を喰う」というコミュニケーションの場を提供したいと考えています。

—受け入れ側の反応など、いかがですか？

本庄村の場合ですが、地元の教育委員会に協力していただいています。終了後、レポートを提出させるのですが、まとめたものを報告書として教育委員会にお渡ししたところ、こちらが考えている以上に真摯に扱ってくださいまして、地域活性化のプロジェクトとして活用したいとの話をいただいています。貢献というほど大きなものではないですが、色々な繋がりが、大きなものになっていければいいですね。

学外授業は、実体験を通じて、専門あるいは教養としての知識を深く理解する上で、とても有効であると考えています。

美術学部 日本画 美術実技 Ⅱ-2

Off Campus Class
NUA



白井久義

日本画領域 日本画コース

日本画コースでは、制作に使用する材料について学習する為にその製造工程を実際に見学することを、学外授業として実施しております。

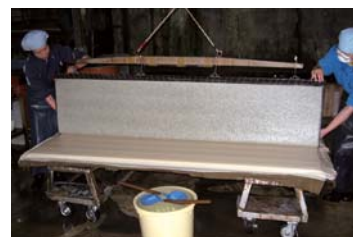
今回は、2年生(22名)、4年生(23名)を対象に福井県越前市にある岩野平三郎製紙所を訪問しました。

岩野平三郎製紙所は、明治初期の創業で、初代が中国伝来の麻の繊維で漉く麻紙(現在、多くの日本画家の制作に使用)の復元に成功し、後世に残る日本画紙を作り上げ、多くの日本画家が愛用する「雲肌麻紙」を制作しています。

現在、学生もその紙を使用しているので、より効果的な見学になったようです。

工房に到着すると3代目岩野平三郎さんの出迎えを受け、早速、材料から製造工程と丁寧な説明をしていただき、学生たちも理解を深めることができました。

通常ある紙漉きの工房とは違って、3尺×6尺、4尺×6尺、5尺×7尺、6尺×8尺、という大判の和紙を4~5箇所同時に漉く為にかなり広く、みなさん無言で黙々と作業されているので最初は仕事に見入るばかりでしたが、質問をすると作業中にもかかわらずいいにに応じてくださり、より生きた学習ができたのではないのでしょうか。



ご協力いただいた「岩野平三郎製紙所」岩野さんにうかがいました。

一岩野平三郎製紙所の特色はどんなことですか? 和紙の種類が多いことです。美濃和紙などと比べても多様な種類の紙を作ることができることです。 一学生や作家など製紙所の見学者に対して思うことは?	手漉きの技を見てもらいたいですね。また、手漉きの良さも感じてほしいです。木の皮を使って作る紙の「強さ・良さ・風合い」を理解してほしいと思います。 一伝統の守り、発展させる上で大切なことは、どんなことですか?	手作りにこだわり、決して手抜きをしないことです。日本画以外にも、洋画や油画などでもぜひ利用してほしいと思います。近年は、日本家が減ってしまい襖が作られなくなってしまい需要が後退していますが、壁紙等にも利用できます。和紙の用途が広がることを願っています。
---	--	---

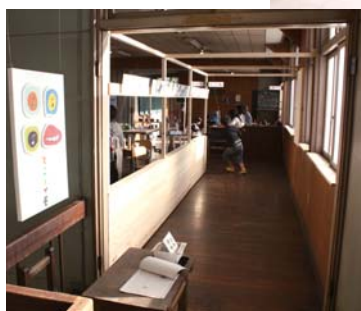
デザイン学部 デザイン 基礎演習 ⅠB

Off Campus Class
NUA

ピンホールカメラによる「トコナメハンティング」一般の参加者が撮影した写真が少しずつ増える。それらを大きな地図にレイアウト

平田哲生

スペースデザイン選択コース



2Fの会場入り口。奥に、現像用暗室もつくりました。会場のデザインから制作は先輩たちが頑張りました。



デザイン学科3、4年生を中心に、初夏から続いたワークショップ。それらの集大成「トコトイ展」、さまざまな楽しいメニューがありました。

常滑フィールドトリップ2009が、地元の商店街、自治体、町の人々の協力の下、昨年よりも大きなスケールで、10月半ばに開催されました。30組以上のアーティストやデザイナーが、旧市役所の建物、元工場、商店、民家、空き地などに作品を設置しました。やきものの散歩道の北端にある大学の常滑工房から、INAXミュージアムまでの約2キロを歩き、見て、地元の人々と話し、食べ、楽しんでもらおうという企画です。私たちは、デザイン演習1B(主に1・2年生、約40名)の授業で制作したピンホールカメラを、見学に来た人々に貸し出し、写真によるトコナメハンティングをしてもらいました。そして、ワークショップのスタッフとして、週末、休日に学外授業で出かけました。旧常滑市役所の2階では、デザイン学科3・4年生チームによる「リデザイン」ワークショップと展示がありましたが、彼らと一緒に暗室も作り、現像も体験してもらいました。大きな常滑の地図の上に、ハンティングした写真が、それも実際に見に行きたいような面白いものが少しずつ増えました。会場の受付、参加者へのワークショップの説明なども先輩たちとやり、ワークショップを成功に導きました。

音楽学部 レコーディング・ミキシング実習Ⅱ

Off Campus Class
NUA



長江和哉

音楽文化創造学科 サウンド・メディアコース

音楽文化創造学科サウンド・メディアコース2年生の授業である、レコーディング・ミキシング実習Ⅱの録音実習として、9名の学生と共に本学オーケストラ定期演奏会のライブレコーディングを10月15日（木）に愛知県芸術劇場コンサートホールで行いました。

9：00入館～搬入～セッティング～ゲネプロ収録～本番収録～ばらし21：30退館というスケジュールでした。

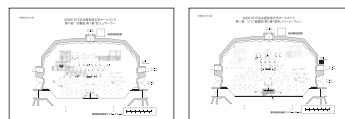
ゲネプロ中は、客席での音とマイクをとお



しての音との違いを感じることができ、とても充実した実習となりました。

本コース学生は、音楽制作、録音、音響を中心に勉強をし、クラシックはもとより、他ジャンルの音楽や音そのものについて幅広い視点で音楽を学んでいます。

また特色として、1年時より作曲を学ぶことにより、音楽を構成する要素をより具体的に習得していています。実際はコンピューターをツールとして作曲を行っていくわけ



すが、今回の録音実習を通じて、オーケストラ楽器の美しさや難しさ、また、デジタルリバーブでなく、ホール内に響き渡る自然な残響を感じることができ、学生自身の音楽の幅を広げることができたと思います。

収録した素材は、今後、学生自身が編集をしていくこととなります。

デザイン学部 デザイン実技

Off Campus Class
NUA



落合紀文

メディア&コミュニケーションブロック
ヴィジュアルデザイン選択コース

2009年7月、北名古屋歴史民俗資料館にて、学外授業を実施しました。内容は、デザイン学部ヴィジュアルデザインコース3年学生に対し「回想法の現状について」で、同資料館学芸員と同市回想法センターの方から、回想法の現場の話を交えての特別講義をして頂きました。その導入と理解に基づき夏期休講期間に各自、デザインによる問題解決や展開可能なテーマを抽出する事としました。後期始め、企画発表会を経て、デザインプロセ



スは個別対応としました。約1ヵ月、10月末に学内で学芸員を招きプレゼンテーションを行いました。その結果を踏まえ、11月1日から2010年1月31日まで、歴史民俗資料館企画展「昭和レトロ雑貨大全」の中で「レトロ・回想をデザインする」というタイトルで展示発表する事となりました。ここ数年、資料館と回想法センターの協力を得て、学外授業を交えて、デザイン課題として取り上げ展

開しています。心理療法、認知症の予防や進行抑制などの回想法の可能性の中で、デザインを学ぶ学生が何を考え提案出来るのか、短い期間の課題の解答ではあるが、世代を越えた現実的なコミュニケーションの成立について考える事の意味は、大きく深いと考えています。



教養部会 教養講座 (自然)

Off Campus Class
NUA



東條文治

人間発達学部 教養部会

8月24～26日にかけて本学のセミナーハウスがある長野県木祖村で集中講義を行いました。この学外授業は教室での講義とは対照的に体験を中心に自然科学を学習する機会を提供することを目的としています。対象学年は2年生以上で、11名の参加がありました。初日、木祖村へ向かう途中に浦島太郎伝説がある「寝覚の床」という景勝地で景観をつくる岩石の見学をし、セミナーハウスでは天体望遠鏡の製作と操作方法の学習を行いました。



学生は以外に単純な望遠鏡の構造を知り驚いていたようです。昨年は月と木星を観察・撮影できたのですが、今年は雲が出て天体観測はできず、プロジェクターによるパソコン・プラネタリウムとなりました。二日目は原始の森（森林）、アヤメ池公園（湿原）、スキー場グレンデ（草地）と環境を変えながら動植物を撮影しました。学生は名前も知らない草花や虫の種類の多さに驚いていました。最終日には撮影した動植物を調べて各自がオリジ

ナルの図鑑を製作しました。学生は実際の動植物や岩石に触れるなど、自然の事物について実感を伴った観察活動を行い、自然科学の原点である観察する力を磨くことができたのではないかと思います。



人間発達学部
子ども発達学科
児童福祉Ⅱ
ゼミナールⅢ
Off Campus Class
NUA



伊藤貴啓
子ども発達学科

今回で6回目を迎える児童養護施設「子どもの家ともいき」の「ともいき祭り」に、今年は、子ども発達学科で「児童福祉Ⅱ」「ゼミナールⅢ」を履修する3年生18人が参加しました。

児童養護施設が開催する祭りにボランティアスタッフとして参加し、児童養護施設に入所している子どもたちとのふれあいなどを通して、子ども福祉についての理解を深めることを目的としています。



この「ともいき祭り」には、1回目から名芸大短大部保育科の学生がボランティアスタッフとして参加しており、現在は子ども発達学科の学生が受け継いで、毎年開催される祭りを支える重要なマンパワーとなっています。

そして、学生にとっても、施設実習とは違うスタンスで児童養護施設の子どもたちと接する貴重な機会であり、準備開始の9時半から片付けが完了する午後2時半までみな熱心に活動し、参加したどの学生からも充実した

学外授業であったとの声が出ていました。

現在、子どもの家ともいきには、「ともいき祭り」に参加していた名芸大短大部保育科卒業生が3名就職しています。これは、こういった学外授業を通して、施設と本学との連携がもたらしたものであり、子ども福祉の理解を深めるだけではなく、就職に向けた活動としても、今後も継続していきたい学外授業です。



デザイン学部
テキスタイルデザインコース
有松鳴海
産地
Off Campus Class
NUA



張正、鶴飼正己さんから布をたたんで絞る方法を学ぶ

扇 千花
テキスタイルデザイン
選択コース

張正、鶴飼敬一さんと参加学生の染め上がった布



デザイン学部テキスタイルデザインコースでは、2005年から地元の地域産業と連携して新しい布の開発を目的とした授業を行なっています。今年度は「日本の伝統の軸線にあるモダンデザイン」をコンセプトにして活動しているSOU・SOUをデザイン学部特別客員教授として招き、SOU・SOUの人気商品である地下足袋に使う布をつくるため、名古屋市緑区の有松鳴海産地で学外授業を行ないました。参加者はデザイン学部1～4年生30名です。

最初の授業は6月26日有松鳴海校舎で、絞りの手ぬぐいが東海道の名産品になることから始まる江戸時代からの有松の歴史や、100種類にも及ぶ絞り技法を知った後、有松で110年続いている板締め絞り工場「張正」のご協力をいただき、実技を行ないました。「張正」の鶴飼良彦さん、正己さん、敬一さんから、板締め絞りの一種である雪花絞りの基本である、布をたたみ～板で締め～染める方法を学びました。

基本を理解したところで、学生は板締め絞りをを使った新しい柄を夏休みに考え、SOU・SOUディレクター若林剛之先生のチェックを受けてデザイン案を固めました。そして、10月～11月、5回にわたり、「張正」の施設を借りて、布をたたみ～板で締め～染めるというプロセスで試作を繰り返しながら布をつくりました。

学外授業は、生産の現場で自分の意思を伝えることの大切さや難しさを知り、時間的な制約がある中でより良いものをつくる姿勢を学び、現場の臨調感を知る機会になりました。学生からは、自分の作品に対して産地から自分のデザインに対して影響を与えられて興味深い、手ぬぐい一枚つくるにも何人もの職人たちの手が入っていることに感動した、自分の住んでいる地域の産業にも興味をわいた、伝統産業に自分のアイデアを加えて新しいデザインができれば素敵だと思った、という反応が寄せられました。

美術学部
博物館学
各論
Off Campus Class
NUA



原 史彦
美術文化領域全般

博物館と一口に言ってもその形態は千差万別で、学芸員として成すべきことも館によって異なります。その多様性ゆえに、講義で紹介できる内容といえ、ほんの一例に過ぎません。それゆえに、学芸員を志す人には少しでも多くの博物館に出向き、各館の特性を体感してもらいたいと思っています。

その趣旨に基づき、今回は徳川美術館の「日本の美術の愛し方」展の見学を兼ねて、7月4日に学外授業を実施しました。この企画は私の同僚が企画した日本人の美意識を問う意欲的な展覧会です。学芸員云々という以前に、芸術を志す者にとって、この企画がどう響くかもねらいの一つとしました。当日は履修学生84名中、73人の参加を得ましたが、これに参加した感想を今は求めません。

現時点ではうまく表現できなくても、今回、潜在的に得たであろう何かの感触を、将来、ふとした機会に自分自身で引き出すことが出来たら、今回の学外授業の目的は達したと考えています。学芸員にならなくとも、問題意識を持って思考・観察するという姿勢は、将来いろんな場面で役に立つはずと信じているからです。そのため、授業にとどまらず、より多くの博物館を観ていただくことを希望します。





「stripe」



「メソッドB」



チャンスは逃さないように



「paper lace」



「Japanese paper」

非常に手の込んだ作品。5mmほどの帯状に和紙を細く切り、それらを貼り合わせ作品が成り立っている。和紙を切り裂く工程で、刃物で切断するのに加え、意図的に刃を入れず、引きちぎることで和紙を毛羽立て、毛羽だった部分が線となり模様を浮き上がらせている。和紙の複雑に絡み合う繊維質を上手く活かしたものだ。

「学生時代は、洋紙を中心にやってきました。どちらかというと和紙は、扱いにくくて避けているくらいでしたね」和紙を扱うようになったきっかけは、大学院を修了してから。恩師である落合教授の勧めだった。「卒業制作のテーマで『破る』ということをやったんです。それで興味が増して、そのことを研究テーマにして拮げていったんです」現在でこそ作家という立場で活動を行っているが、元々はビジュア

ルデザインコースでデザインを学んでいた。創作物について、100%自分のコントロール下で創造するデザインの世界と異なり、「破る」という不確定な偶発的な創作方法に魅せられた。「中学生の頃から、画家になりたいと考えていました。家族に、おじいちゃんなんですけど（笑）、どうすればいいって尋ねて。それで勉強していくうちにデザインに興味が出てきて、デザイン学部に進みました」絵を描くのが趣味というご老父とのこと。理解ある暖かな家族に育まれたことが偲ばれる。

デザインに進んだが、自分の興味の赴くまま、学びは拡がりを見せる。「大学に入ってから先生に出会って、自由ということを強く感じるようになりましたね。デザインって、ある程度規則のある中で答えを出していくものだと思うんですが、その中でも自

分の考えを出していけるという自由ですね。先生方に理解があるというかそのような意識を感じました。このことですごく視野が広がったように思います」。

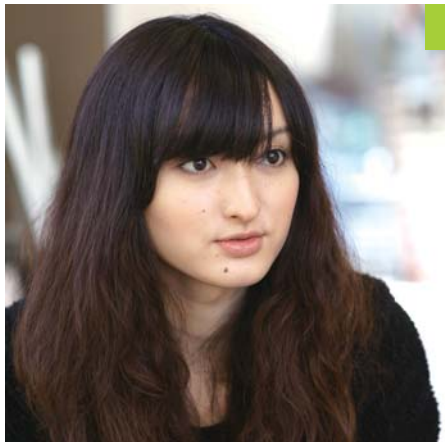
大学院へ進みさらに刺激を受けた。「大学院では洋画の人たちとも知り合うことができて、自分とは違う考え方にびっくりしました。デザインは、早く答えを出さなければならないところがありますが、作家という立場なら自分のルールが一番大切で、例えば、同じことについて何ヶ月も考え続けるということにすごく驚いたんです。そのパワーが大作を生み出す原動力だということも解りました」。

モットーとして「チャンスがあれば逃さない。いつでも飛び乗れるように準備をしています」と応えてくれた。マイペースで、おっとりしているように見えるが、デザイナーから作家へ、洋紙から和紙へ、さまざまに自分を変える姿は、言葉とおりのことなのかもしれない。「二度続けて全国和紙画展では銀賞を頂いたんですが、昨年頂いたコメントはちょっと辛口だったんですよ。それで今年こそはと、今から色々作品の構想を練っているんです」さらなるステップアップに繋がれるか、作品に期待したい。

Vol.20 NUA-OG 野口 晶子

（のぐち あきこ）
1981年（昭和56年）、愛知県生まれ。
2005年 デザイン学部 ヴィジュアルデザイン
選択コース卒業
2007年 大学院デザイン研究科修了
2005年 卒業制作プライトン賞 受賞
2007年 タイ ナレスアン大学美術学部
特別講師 ワークショップ+展示
第20回全国和紙画展 入選
2008年 第21回全国和紙画展 銀賞受賞
2009年 第22回全国和紙画展 銀賞受賞
稲沢市在住。





「人が大好きなので」

「はじめまして」と挨拶し、名刺交換！
 学生への取材では、一方的に名刺をお渡しするのが通例だが、今回は名刺の交換となった。「外部の人とやり取りすることが増えて名刺をいただくようになったので、自分たちで作ったんです。デザインから印刷まで、すべて手作りなんですよ」挨拶や交換の仕草も堂に入ったもの。まるで社会人としての経験があるかのようにこなれている。これまで、小牧市の芸術振興事業としての音楽鑑賞講座や、市をあげての市民音楽祭の運営・マネジメントを、市の担当者とともにこなしてきたというから、本当にキャリアもある。「とても大変でしたよ。会議をするにも、小牧市の教育委員会の方や演奏家の方々と一緒に打ち合わせするわけです。学生という目で見られる時もあるんですが、同じ立場で一緒に仕事をしていかなければならない面もあって、板挟みになったり、

でも、助けてくれたり、みたいなことがあって、勉強になりました」プロジェクトを画策し、推進していく立場。膨大なエネルギーとバイタリティが必要なことは明らか。大変だったと感想を述べるものの、その魅力にも惹かれている。「面白いです。疲れますけど、面白いです」きっぱりと言い切る口調は、実に明朗。人との関わりに限りなく興味をそそられるという。現在は、音楽ビジネス・ステージマネジメントコースにおいて恒例の企画「新人発掘」プロジェクトで、プロデューサーとして手腕を振るう。オーディションと選考、レコーディング、CD製作、そしてプロモーションと経緯を熱心に説明してくれる。すでに、立派なプロモーターだ。就職活動が気になる時期だが、これから本腰を入れていくとのこと。「お客さんと生の現場を通して、直に音楽に関わる仕事」と希望を語ってくれた。



Vol.21
NUA-STUDENT
渥美 沙弥香
 (あつみ さやか)
 音楽学部 音楽文化創造学科
 音楽ビジネス・ステージマネジメントコース 3年

【manifold】



新人発掘プロジェクトも、今回で第5弾。「manifold」をプロデュース。オーディションで選考、レコーディング、CDを作成。



【先生からのひとこと】2009年秋、音楽ビジネス・ステージマネジメントコースが「こまき 秋の音楽祭」の運営で活躍しました。学生の中心的役割を担ったのが渥美さんです。短期間に多くの演奏会が集中し、地元ボランティアスタッフの起用に神経を使い、授業の実践の場として申し分の無い経験をし、ひと回り大きく成長した感があります。現在は、新人発掘企画を進め、学生自ら新人アーティストを発掘し、CD制作や販売、宣伝プロモーション活動を通しての勉強をしています。第5弾となる今回「manifold」という5人バンドを売り出す運びとなり、同時にイベントも開催し販売を開始します。いままさに輝いた活動を続けている渥美沙弥香さんです。(音楽文化創造学科教授・竹本義明)

「実習で一層興味がわきましたね」

「すっごく良くしてもらって、楽しくて。実習に行って、ますます先生になりたくなって、興味が増えました」快活であり丁寧な口調で、昨年の教育実習の時のことを語ってくれる。出身地の三重県伊勢市、母校の中学へ赴いた。「たまたまだったんですが、音楽担当の先生が、名芸の卒業生だったんです。話も弾んで、アドバイスをたくさんいただきました。それから、実は弟が中学に在学中で、私の知ってる弟の友達もたくさんいて『お姉ちゃん』ってということで、やりやすかったです。ちょっとやんちゃな子からも慕われて。」実りの多い実習になったことが手に取るように伝わって来る。

中学の時に教え受けた音楽担当の教師、担任の先生に大きな影響を受けた。そして教師という仕事に憧れを抱いた。「自分も同じようになれればいいな…」小さな憧れは、当時の校長先生の「先生に向い

ていると思うよ」というなげない一言で、大きなものへ育まれていった。5歳の時から始めたピアノ、そして教師という夢。両立するために音楽教育コースへと進んだのは必然だった。「ピアノや歌の専科でも教員免許は取れますけど、私は両方ともしっかりとできる先生になりたいんです。だから両方できる音楽教育コースを選びました。」

教師になることの最大の難関は、教員免許を取得することよりも採用試験にある。しかしながら今年は残念な結果に甘んずることとなった。「やっぱり出身地というこだわりがあって、三重で受験したんです。中学校の音楽ということで受験したんですけど、採用が3人しかなくて…。小学校ならもう少し募集があったんですけどね。」初めての大きな挫折かもしれないが、屈することなく来年に向け講師として頑張ろうと強い決意を示してくれた。



Vol.22
NUA-STUDENT
野呂 恵里奈
 (のろ えりな)
 音楽学部 音楽文化創造学科
 音楽教育コース 4年

教育楽器研究所で雅楽やハンドベルも練習、演奏する。雅楽は笙(しょう)や楽太鼓を担当。学外で演奏することもしばしば。



【先生からのひとこと】野呂さんは、将来は教員になりたいという夢を持って本学の音楽教育コースに入学なさいました。当初は中学校の教員を目指していたようですが、後に小学校教員にあこがれるようになり、昨年、独学で小学校教員の免許資格を取得しました。また、今日の学校教育現場では邦楽の指導能力が要求されることから1年次より学内で雅楽を学び始め、笙と楽太鼓はなかなかの腕前です。(音楽文化創造学科教授・金子敦子)

大学 大学院

芸大祭 2009 を終えて…

今年は芸大祭のテーマ「LOVE」に沿い、人と人との繋がりを深めることができる芸大祭を目標に、実行委員をはじめその他の生徒や先生、地域の方々、職員の方々と協力し、長い間頑張ってきました。

その甲斐あってか、今年は3日間とも見事に天候にも恵まれ、お客さんも多数来場し、例年以上に活気のある芸大祭になったと思います。中でも、例年と違ったのはこども達の人数でした。今年から1号館内の教室を使用し、人間発達学部の学生によるこども向けの企画を行った事により、こども達の数が特に増えました。これによって今まで以上に誰もが楽しめる芸大祭になったと思います。

この芸大祭が新たな絆や繋がりを深めるきっかけになっていたら幸いと思っています。

芸大祭 2009「LOVE」お疲れさまでした!!

東キャンパス芸大祭実行委員長
荒川 琢哉

今年の芸大祭は、人と人とでつくれる、「わ」そして芸大祭ならではの、「アート」。2つを合わせた言葉「わぁーと」をテーマとして、芸大祭に参加する人に「わぁーと」を合い言葉にしてみたらどうかと考えました。

30日、31日共に気候に恵まれたこともあり、沢山の来場者に来ていただくことができました。29

日準備日のオープニングに始まり、30日は朝から模擬店・企画店の営業を行い、クローバー畑のステージでは、ミスコン等の実行委員主催イベントを3つ行いました。31日は土曜日ということもあり、外部からの来場者の参加イベントを中心に行いました。1つはクレープアートと共同で子供・大人・名芸生で巨大な絵を描くというイ

ベント。もう1つは、体育館でサカナクションのライブを行い、大いに盛り上がる事ができました。そしてエンディングで芸大祭の終わりを飾りました。

短い期間でしたが、今年もたくさんの方の協力のお陰で楽しい芸大祭を行うことができました。

西キャンパス芸大祭実行委員長
伊集院一徹



東キャンパス



西キャンパス



大学 大学院

生涯学習大学公開講座

東キャンパス

講座名：オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル
講師：非常勤講師 武藤祥子
開校日：金曜日
時間帯：10：30-12：00

この講座は、「はじめてのオカリナ（初心者向け）」に引き続いて、よりオカリナに親しんでいただくために開講された講座で、指使いをマスターしたい方を対象に、オカリナの演奏の基礎を学びながら、合奏形式で進められました。

講師の解説と模範演奏を聴いた後で、全員で合奏しながら課題曲に取り組んでいました。

受講生24名の中には5名の男性も含まれていて、皆さん大変熱心に、一生懸命演奏していました。初めて参加したという女性は受講の動機として、「一度オカリナを

吹いてみたかったんです。音が出せるだけでもいいんです。」と恥ずかしそうに伝えてくれました。

課題曲「もみじ」の演奏では、講師の一小節ずつの丁寧な演奏指導を受けながら練習し、全小節をマスターした後、全員で合奏していました。

土でできた楽器「オカリナ」のやさしい音色が、教室いっぱいに広がり、受講生をあたたく心地よい空気に包んでいました。

西キャンパス

講座名：はじめての織機ーリジット機でマフラーを織るー
講師：榎本裕子（織作家）
開講日：水曜日
時間帯：9：00-12：10

X棟一階のテキスタイル工房に

足を踏み入ると、十数名の受講生の皆さんが、楽しそうに織物に取り組んでいました。この講座は、平織り専用のシンプルな構造の卓上織機を使用して、日常を彩る味わいのある織物を制作するために開講されました。受講生のお一人にお話を伺うと、「自宅にたくさんの毛糸があまっているので、これらを再利用するために参加した。」とのことで、家族にプレゼントするマフラーを制作中でした。受講の動機が「姉が織物をやって

いるので、自分も体験してみたかった。」という中年の女性は、「デザインを決めて織りに入るまでの過程が大変ですが、織り始めたら意外と簡単なんです。」と話してくれました。

全9回の講座で、前半はマフラーを制作しながら、織りの仕組みと織機の使い方を学び、後半は講師の先生と相談しながら、裂き織り、ラグ、綴れ織りなど、平織りのバリエーションを体験する講座でした。



東キャンパス



西キャンパス



音楽学部

第32回 定期演奏会が行われました

音楽学部恒例の第32回定期演奏会が、2009年11月12日、名古屋

屋市中区の三井住友海上しらかわホールで開催されました。

この定期演奏会は、学年を問わず多くの学生が参加するオーディションによって選ばれた出演者によるもので、独奏・独唱の形態による学生個人のすぐれた技術と

感性を表現する演奏会となっています。

名古屋芸術大学音楽学部では、学生は毎日の練習とレッスンを受けるのみでなく、舞台での演奏に

よって、その成果と教育効果を格段に高めることができると期待しています。

こうした理由から、毎年多くの演奏会を開催し、多くの学生が出演できる機会を作っています。

プログラムは、前半に9名、休憩を挟んで後半も9名、合計18名の学生が出演し、電子オルガン・マリンバ・ピアノ・フルート・ク

ラリネット・ファゴット・テューバの独奏が、また、ソプラノ・テノールの独唱が行われました。

憧れの舞台に立った学生たちは、担当教員や家族、友人の見守る中、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮する素晴らしい舞台を披露してくれました。会場を埋めた聴衆からは惜しめない拍手が送られていました。



音楽学部

第2回 トランペット専攻生による クリスマスコンサート “スタ☆コン”が行われました

2009年12月16日(水)、東キャンパス3号館音楽講堂で、第2回名古屋芸術大学トランペット専攻生によるクリスマスコンサート“スタ☆コン”が行われました。この演奏会は昨年、「トランペットだけの演奏会を是非やってみたい」という学生達の強い希望で実現したのもで、今回2回目を迎えました。

演奏学科弦管打コースと総合コースのトランペット専攻の4年生が中心となって企画し、トランペットは学生12名、卒業生1名、研究生1名、教員2名の構成でした。

4年生の高橋あゆみさんによると、「8月頃からメンバーの編成

を始め、10月からは週1回2時間程度の全体練習をやってきました。今年は、昨年の反省を活かし、曲目もポップスや子ども達に親しみのあるものを取り入れています。」とのことでした。

プログラムは、第一部はアンサンブルで、R・シンプソンの「ソナチネ」を皮切りに、D・ホータンの「6本のトランペットのための組曲」など5曲が演奏されました。服部 正作曲（編曲/吉原功太郎〈3年生〉）の「ラジオ体操第一」では、演奏に合わせてラジオ体操の演技も披露されました。第二部はトランペットオーケストラで、指揮は、指導教員の星順治先生が

執りました。ちなみに、演奏会の名称“スタ☆コン”の“☆”は星先生が由来とのことです。オーケストラには、同じくトランペットの指導教員の栃本浩規先生や、パーカッションで2名（研究生・学生各1名）が加わり、ドラゴンクエストのテーマ「序曲」や、ジブリ作品（岸の上のポニョ、となりのトトロの「さんぽ」）、ディズニーファ

ンテリュージョンなどが演奏されました。最後は、クリスマスメドレーで、おなじみの ジングルベル・きよしこの夜・クリスマスおめでとう で終演となりました。

学生達の真摯な態度や一生懸命な演奏に大きな拍手が送られていました。訪れたご近所の家族連れや子どもたちと共に一足早いクリスマスの夜を楽しみました。



音楽学部

「ナゴヤまちかどアンサンブル」に 学生達が出演しました！

2009年9月4日(金)、17時30分より名古屋市のテレビ塔で、河村たかし名古屋市長が列席される中、本学音楽学部学生達の金管5重奏によるファンファーレで「ナゴヤまちかどアンサンブル」が開幕しました。

この企画は「街のいろんな所で、音楽が聞こえる明るい街にしたい。」と、河村名古屋市長の発案で企画されたイベントで、11月28日(土)までの期間、テレビ塔会場、ほとりす納屋橋会場、音楽プラザ会場（金山）の各会場で、名古屋芸術大学・愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学の3大学が交代で演奏を行いました。

初日は、本学の担当で、金管5

重奏とラテン・ジャズの演奏を披露しました。会場の椅子も満席に近い中、演奏を聞きつけ会場に駆けつけた方々で、立ち見が出るほどでした。河村市長をはじめ、演奏を聴かれた方々は、曲に合わせてリズムを取ったり、手拍子をしたりして、初秋の夕方の思いがけない音楽のプレゼントに、楽しいひとときを過ごしていただいたようです。

当日は、次のプログラムを披露しました。

【第1部】金管5重奏

1. 「バレエ組曲“ペリ”より ファンファーレ」／P.Dukas
2. 「GREENSLEEVES」／David Uber

3. 「ディズニーメドレー」／岩井直博編
ミッキーマウスマーチ～小さな世界～口笛吹いて働こう～星に願いを
4. 「アメリカンパトロール」／F.M.Meacham
5. 「ハバネラ風“イエスタデイ”」／J.Lenon（高山直也編）

【第2部】ラテン・ジャズ

1. 「Obatala」
2. 「Moonlight Serenade」
3. 「らいおんハート」
4. 「ディズニーメドレー」

また、本学としては最終日となった11月7日(土)は「3大学による競演」と題され、名古屋芸術大学、名古屋音楽大学、愛知県立芸術大学の学生達が、皆さんの前で様々なジャンルの曲を披露しました。

午後2時に競演の幕が落とされ、名古屋音楽大学「めいおんジャズオーケストラ」、愛知県立芸術大学「金管10重奏団」の演奏が順に披露され、最後に名古屋芸術大学「ミュージカルカンパニーワン」が、1980年代のヒットナンバーでつづった「ザ・ベストテンコンサート」を披露しました。

【当日のプログラム】

- Overture～星空のディスタンス～Romanticが止まらない
- 異邦人
- ミ・アモーレ
- さよならの向こう側
- Cat's Eye～め組のひと～ふたりの愛ランド

会場は、名古屋芸術大学の演奏を待っていた方々に加え、演奏を聞きつけてこられた方々で、世代

を超えた大勢の皆さんで埋まりました。中には懐かしい曲に合わせて口ずさんだり、リズムを取って音楽に乗っている人など、ミュージカルカンパニーワンの演奏を楽しんでいたように、ほんのひとときではありましたが、企画のコンセプトである「音楽が聞こえる明るい街」になっていたと思われまます。

なお、2回目以降の本学の演奏は下記の通り行われました。

- 9月11日(金) テレビ塔会場
17:30~18:00 18:30~19:00
【JAZZ Sextet】

- 9月12日(土) 音楽プラザ会場
13:00~13:30 15:00~15:30
【ピアノトリオ】
- 9月27日(日) ほとりす会場
15:00~15:25 15:35~16:00
【テノール4重唱】
- 10月2日(金) テレビ塔会場
17:30~18:00 18:30~19:00
【クラリネット&マリンバ&ピアノ】
- 10月11日(日) ほとりす会場
15:00~15:25 15:35~16:00
【サクソフォーン4重奏】
- 10月16日(金) テレビ塔会場
17:30~18:00 18:30~19:00
【2サクソフォーン&ピアノ】

- 10月24日(土) 音楽プラザ会場
13:00~13:30 15:00~15:30
【弦楽4重奏】
- 11月1日(日) ほとりす会場
15:00~15:25 15:35~16:00

- 【ヴァイオリン&クラリネット
&パーカッション&ピアノ】
- 11月7日(日)
16:00~16:30
JRタワーズガーデン会場



人間発達 学部

人間発達研究所子育て支援講座 「親子で遊ぼう」が行われました。

2009年9月2日(木)から11月26日(木)の三ヶ月間、毎週水・木曜日(月8回)の午前9時30分から正午まで開催しました。会場は本学東キャンパス9号館3階プレイルーム・心理実験室・クリエ幼稚園・大学の前庭を使って行いました。講座内容は①子育て講座と相談②親子で遊ぶワークショップ③絵本・作る・動く・演じるなどでした。

この「子育て支援講座」は、人間発達研究所の設立目的である「地域社会に開かれ、地域社会に貢献する大学を目指す」一つの事業です。

本学部の専任教員と非常勤講師

により、地域の1、2歳程度の子どもと親20組を対象に集団遊びの場を提供し、子どもとの遊びや子育ての楽しさを体験させるとともに、子育て相談にも応じました。

おおよそ平均16組程度(予定20組)の参加者がありました。

参加者の感想として、「親子で他のお母さんやお子さんとかかわり有意義でした」、「幼稚園でのお兄ちゃんやお姉ちゃんと遊ぶことができてよい刺激になりました」、「保育学・心理学の面から優しく教えていただき、子育てをもう一度客観的に見つめなおしてみた」、「最初はくっついてしか動く

ことができなかったけれど、少しずつ離れたり、もどってきたりを繰り返しながら遊び始めました。一人でやっているともう一人近づいてきてスコープの取り合いが始まり、友達を意識し始めました。子どもの発達に良い機会を与えることができました」、「何となくわかっていても、人から聞いたりすると再認識でき、また子育てに生かそうかなと意識しました」、「まだ、ことばも話せない子ども同士でしたが、ちゃんと子どもの世界があると感じました」、「気候

が良いこの時期の大学構内の緑の芝生と青空もとで、落ち葉をカササと踏み、うれしそうに歩く子どもの姿が印象的でした」、「スコープで枯葉を集め、カップにいれる遊びに夢中になっていました」、「自然のものを使って遊べるし、遊びも広がっていきました」、「幼稚園の砂場で遊びました。大きい子たちを見ていましたが、そのうち大きなスコープで小さいカップに砂を入れることに夢中でした」など多くの感想が述べられ、来年度も開催を期待されました。



美術学部

デザイン学部

ガラス教育機関合同会議「GEN」2009 名古屋芸術大学で開催!!

ガラス教育機関の関係者が交流を図り、情報交換をする場であるガラス教育機関合同会議「GEN(Glass Education Network)」。

1996年以来毎年行われており、2009年は11月7日(土)に名古屋芸術大学で開催されました。教員によるミーティング、学生展、レクチャー、デモンストレーションなどが行われ、イベントには全国からガラス関係者の教員や学生、地域の方々などが集まり、ガラスアートにふれる一日を過ごしました。

全国各地から、名古屋芸大に 集合したガラスアーティスト!

「GEN」は、1996年に多摩美術大学の伊藤孝教授と愛知教育大学のマイケル・ロジャース助教授(当時)の呼びかけにより、ガラスの教育機関の代表者約30人が愛知教育大学に集まったのが始まりです。1998年に愛知県瀬戸市での開催が決定していたGAS(ガラスアート国際年次総会)に、日本の教育機関としてできることはないかと話し合うことを目的に開催され、「GAS in 瀬戸」が終了し

た後も、会場を参加機関の持ち回りで年に1度、学生や学校間の交流と情報交換、学生の支援などを目的に続けられています。

今年の「GEN」の会場となった本学では、秋晴れの日、県外からも大勢の学生や教員が集まり、レクチャーや吹きガラスのデモンストレーション、フォーラムなどが開催されました。

Art and Design Centerでは、11月6日から11日まで「GEN2009学生展」が開催されており、参加校の学生によるガラス造形作品が展示されました。「自由落下:二幕構成のインスタレーション」をテーマとしており、すべての作品

はコブレット(ワイングラス)をガラスの保護構造で包んだ造形物となっています。巨大なキューブ状の形や、プロペラが付いたもの、頑丈そうに見えるものや繊細なものまで、さまざまな形と大きさの造形物が並べられました。それぞれの作品、内部に納められているコブレットの写真が添えられています。これらは、展覧会の一環として行われる「コブレット・ドロップ・プロジェクト」で、実際に5mの高さから「自由落下」させ、衝撃からコブレットが割れずにいるかを確かめられます。衝撃に耐え形を保ったままのコブレット、あえなく粉々になったコブレット

などそれぞれの運命を目の当たりにしました。

ガラス工房では、午前10時から、「ピーター・アイビー デモンストレーション」が行われました。アイビー氏は、富山県富山市在住のガラスアーティストです。ベネチアングラスのレース技法を用いた、繊細な作品で知られています。美しいフォルムをもつ宙吹きガラスによるコブレット制作のデモンストレーションとあって、ガラス工房には全国から集まった学生をはじめ多くの人たちが集まりました。参加者は、アイビー氏の手元に見入り、徐々に形をつくっていくガラスの姿に魅せられました。

また、屋外に設けられた販売コーナーでは、吹きガラスやステンドグラスなどの制作に使用する材料や道具が並べられ、学生らは色とりどりのガラス材料を選んでいました。同時に今回のGEN開催を記念したTシャツの販売も行われ、揃いのTシャツを着たイベントの運営スタッフには、美術学部美術学科ガラスコースの学生が当たりました。

アメリカで活躍する2氏の作品と魅力にふれるレクチャー

午後からは大講義室で、陶芸作家の金子潤氏、ガラスアーティストのサーマン・ステイタム氏を招いてレクチャーが行われました。

金子氏は名古屋生まれで、21

歳のときに画家を志し渡米。その後ロサンゼルスで土と出会い、アメリカ現代陶芸の巨匠であるピーター・ヴォーコス氏に学びました。1986年からネブラスカ州オマハにアトリエを構えて活動が続いています。レクチャーには大勢の学生や一般の方々が参加し、会場は熱気に包まれました。作品をスライドで紹介しながら、アメリカでの制作やオマハのアトリエについて、巨大なスケールの陶芸作品の制作方法などの話をしました。

金子氏は、「芸術表現について考えがはっきりするまで、私の場合は20年位かかります。自分に直接訴えるものを作って10年、20年、40年…考えが明確になるまではそれくらいかかる。理屈を探すのではなく自然に生まれるものが大切」と話します。また、「ガラスはそのものがきれいで、何を作ってもよく見える。それで避けていたのですが、一度手を染めてみないと解らないと思い、制作してみました」と、ガラス作品も紹介しました。そして、オペラの舞台デザインについて、オペラの舞台制作はコスチューム担当やライティング担当の人など約200人との共同作業で、それぞれの人とつながりがないと上手くいかないといいます。「オペラの舞台制作ほど、チャレンジのある仕事はない。チームの力で作っていく醍醐味があります。オペラの完成度の高さ

は、チームワークにかかっている」と熱を込めて語ります。最後に、制作拠点であるオマハにアーティストの創作活動を支援する目的で設立した財団について、今後、レクチャーの開催や図書館の運営などを行っていくと話しました。

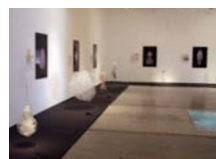
サーマン・ステイタム氏は、アメリカの数多くの教育機関でガラスアートの講師経験を持ち、現在、カリフォルニアを拠点に創作活動を続けています。宙吹きガラスや板ガラスにドローイングを施し、さまざまな素材を組み合わせて構築するインスタレーション作品で知られます。作品を紹介しながら、時折ユーモアを交えてのレクチャーとなりました。12〜3mあ

るという家のような大きなインスタレーション作品や、仏教に興味があるということで仏陀の顔をモチーフにした作品など、感性のままに制作したというさまざまな作品を紹介しました。

また、ケニアのモザンビークで、子どもたちに作品づくりを教えた楽しい時間を過ごしたという経験も披露。部屋の外には300人もの子どもたちが順番を待っていたといい、用紙や道具がなかったが、子どもたちのために紙皿など手近なものをすべて使って楽しんだと話しました。参加者らは、次々映し出される色彩感覚豊かな作品に感動し、ステイタム氏の話に引き込まれていました。



学内に立てられた「GEN2009」のポスター



「GEN2009」学生展の風景



コブレットが内蔵されている名古屋芸術大学の作品



「ピーター・アイビー デモンストレーション」風景



ガラス制作の材料などの販売コーナー



美術学部の三枝先生と、記念Tシャツを着るガラス専攻の学生

【金子潤氏レクチャーから】



米田ボストンの地下鉄構内のデザイン

【サーマン・ステイタム氏レクチャーから】



オペラ「マダムバタフライ」の舞台

【サーマン・ステイタム氏レクチャーから】



「新世界へのものかたり」ヨーロッパ人によりアメリカ大陸が発見されたというテーマの巨大なインスタレーション作品

【サーマン・ステイタム氏レクチャーから】



モザンビークで子どもたちにアートの楽しさを教えた

美術学部

デザイン学部

旧加藤邸アートプロジェクト2009

—記憶の庭で遊ぶ— が行われました

2009年10月31日から11月8日まで、北名古屋市六ツ師にある明治時代に建てられた国登録の有形文化財「旧加藤家住宅」において、本学の学生や卒業生たちのアート作品を展示した展覧会が行われました。

作品のテーマは『記憶の庭で遊ぶ—回想法の美術—』で、芸術を探究する学生たちがこの旧加藤家住宅という場から触発されて生まれた発想やイメージがどのような造形となってこの場の記憶を新たにするかを目的とした展覧会です。

絵画、版画、彫刻、立体造形、映像、玩具、絵本、インスタレーションなど18点が、座敷や縁側などを備えた主屋と、茶室のある離れに展示されました。

期間中の11月3日(祝)には、本学の非常勤講師で、学芸員の藤井匡氏による講演会「日本家屋と展覧会」が行われました。藤井氏は講演の中で、「最近はこのような日本家屋などもともと美術を展示するような場所ではない所で行われる展覧会が多くなっている。」と話し、名古屋市東山荘の庭、広島

県音戸町倉橋島の旧家屋、島根県松江市玉造温泉の旅館など、美術館やギャラリー以外で行われている様々な展覧会の様子を、作品の映像を見せながら解説されました。また、谷崎潤一郎の「陰影礼讃」を例に取り、その内容を解説しな

がら日本人の美意識について、当時の時代背景を考慮しながら興味深く語っていただきました。

展覧会最終日の11月8日には、茶道クラブによる呈茶会も催され、多くの来場者があり、盛況な展覧会となりました。



美術学部 デザイン学部

2009デザイン学部特別客員教授 河野英一氏ワークショップが行われました

2009年度デザイン学部の特別客員教授である河野英一氏によるワークショップが、2009年10月22日(木)、西キャンパスで行われました。20日(火)に行われた公開講座では、アルファベットのタイポグラフィーやフォントデザイン、ロゴデザインについてのお話をうかがっており、ワークショップでタイポグラフィーの一端を体験しました。

「LIFE」「LIVE」「LOVE」 文字のバランスって不思議!?

ワークショップには、デザイン学部のビジュアルデザイン選択コース、イラストデザイン選択コースの2年生を中心に約40人の学生が集まり、河野氏の指導でアルファベットについて文字のつくりなどを学びました。

まずA3版の5mm方眼用紙、接着やはがすことが簡単に自由に線を描けるアートワークテープが用意されていました。そこで、アルファベットを書く際に使用するサイズを方眼用紙に書き入れていきます。サイズ感などは自分で書きながら覚えるということで、とにかくやってみることが大事だと話しました。

文字のサイズの話や、「b」「p」など上下に長い線「アセンダー」のある文字は、線を長くすることで流麗になると説明。また歴史的

な見方からくるクラシックな文字のサイズとその印象などについて話しました。それから、ホワイトボードに「L」「I」「F」「E」と書き、最初に「LIFE」という単語を作る練習に入ります。そのあとで「V」「O」と続き、この6文字をコピーして組み合わせて、3つの単語「LIFE」「LIVE」「LOVE」を作っていました。縦線と横線の組合せである「LIFE」、そして「O」の丸が加わった「LOVE」という単語を次々作ることで、文字間のバランスや文字の大きさの感覚を学んでいきます。

学生らは「ムズカシイ。とにかく自分でやってみないとわかりません」「円(O)だけを見るとずいぶん大きく感じるけれど、単語に組み合わせると小さく見える」などと感想を話しました。

河野氏は「頭で考えるだけできれいなものを作ろうというのではなく、手で覚えることが大事。アルファベットの形にはMやWなど幅が広い文字、IやFなどのように細長い文字、OやQのように丸い文字、いろいろあります。また作業するときには、どのようにしたら効率良くできるかを考えるのも大切です」と話します。学生らは、文字を一語ずつ切り貼りして間隔をみながら、どのくらいのサイズなら見やすいかを調整して

単語を作っていました。

デザインの基本を学んで アルファベット文字の世界を楽しむ

河野氏は、文字の作り方として「L」や「E」の縦線を太くする際には、縦線の真ん中で縦に切り開いて太くして間を塗りつぶすことや、「O」の文字を大きく整えるには、文字を十字に切り、少し開いて間を塗りつぶすなど、文字の形を壊さないままに文字のサイズを変える方法についても伝授。ハサミとテープを手に、ご自身も単語を作って学生に手本を示しました。

さらに、「このような作業は、インダストリアルデザインからいえばモックアップしているようなもの」「スケッチからプロトタイプを作っているようなもの」と、デザインの基本はどのような分野でも変わらないと話します。

制作をしている学生の間を歩いて、「Vの文字をもっと広く取って」「Eが少し横幅がありすぎる」などと、アドバイスをしながら美しい文字のバランスを示しました。また、「アルファベットは世界中の

みんなのもの。私たち日本人には漢字や仮名もあるし、文字の世界のなかでデザインを理解するためにはとても良い位置にいる」と話していました。

学生らは、「文字の縦幅、横幅の違いにより、見え方がずいぶん違うことを発見できました。楽しい授業です」「文字というより、何か新しいデザインをしているような気がしてきました」「文字と文字とのバランスを取るのとはとても難しい。丸い「O」文字と縦長の文字とでは、扱い方がかなり違うことが分かって驚きました」など、さまざまな感想をもったようでした。

河野氏は、単語を作るときスペースの取り方や、文字のバランス感覚の大切さを、実際に手を動かして作業することで覚えてほしいと話しました。学生らは先生が作った単語の文字間を確かめたり、友だちと文字を比べたりしながら、アルファベットを組み立てていき、美しい言葉をつくるクリエイティブな時間があったという間に過ぎていきました。



Column NUA No.9

色 雑 感

デザイン学部教養部会 教授 長谷川勘一

四季折々の自然がかなでる色の移ろいに心をよせる機会が多くなってきたのは、歳を重ねたせいであろうか。4月は五葉川の桜、5月は曼陀羅寺の藤、6月は性海寺のアジサイ、7月は立田の蓮など…。自然の配色は色彩調和を考えるとときのよいお手本である。半世紀以上も前に、アメリカのジャッドが色彩調和についての先人たちの研究を4つの原理にまとめている。第二の原理として知られている、なじみの原理は、自然の配色のなかで、例えば、夕焼け空

や秋の紅葉のように、見慣れた配色は調和するというものである。平安時代にも自然の配色を模して衣裳の着こなしに活用しようと、かさねの色目が発達した。かさねの色目には、装束を幾枚も重ね着した場合の襲の色目と衣の表裏の重ねの色目とがある。色目には花卉や景色に因んだ名前が多い。例えば「雪の下」という風流な色目は、表が白で、裏が紅梅である。紅梅の花に雪が積もっている情景を思い浮かべるだけで、なんとも風情がある。

春になると、野山の草木が一斉に芽吹き、生長して、やがて花をつける。花の美しさや香りは私たちの五感と響きあい、心に潤いを与えてきた。特に虫媒花は昆虫に花粉を運んでもらおうと、共進化してきた。

花の色素には、フラボノイド、カロテノイド、ベタレインなどがある。フラボノイドはフラボン系が黄色、アントシアニン系が赤、紫、青色と環境の違いにより幅広く発色する。カロテノイドはキャロットに由来する名前からもわかるように、黄から赤色系の色素で、タンポポやマリーゴールドの花の色である。ベタレインは黄から赤・紫色の色素で、サボテンやマツバオタンの花色に含まれている。花卉の表層細胞の液胞に色素が蓄えられることによって、特有の色になる。もちろん、純白の花弁には色素はなく、ビールの泡のように液胞にたくさんの空気があれば、花弁は白くなる。

天然のアントシアニン色素は発色団のアントシア

グループ校特集／名古屋保育・福祉専門学校

『基礎学力の向上を目指した
介護福祉士養成教育を考える』

名古屋保育・福祉専門学校 介護福祉科教員 佐藤良博

介護福祉士養成教育に関しては、現在非常に厳しい状況であるといえます。養成校の定員充足率は、ここ数年で急激に減少し、全国的に50%を割り込んでしまいました。しかしながら老人福祉施設での人材は常に不足しているのが現状であり、少子化を根本原因とし、さらに重労働や低賃金などの理由で、求職者の間での介護離れに拍車をかけているのが実情です。

厚生労働省もようやく人材確保に動き出し、「潜在的有資格者等養成支援事業」や「福祉、介護人材定着支援事業」など新たな事業を複数計画し、稼働し始めたところです。では、養成校としてはどのような具体的な教育を目指し、現状を打破していくかが問われるところです。

介護の仕事は、世間で言われているような、いわゆる「3K」の仕事ではないと私は確信しています。確かに①汚い②暗い③臭い、などの印象が強く前面に出ており、一部の高校の進路指導の先生たちも、介護分野への進学を勧めていないというのが事実です。私は、日頃学生たちに①共感性②協調性③向上心の「3K」を伝えています。このことは当然介護者にとって必要不可欠な要素であり、各養成校でも伝えていることですが、私はさらにもう一つの「3K」を伝えています。それは、①感性②

感動③感謝です。常にアンテナを張り巡らせ、状況の変化に気づける「感性」を養い、その結果高齢者が輝き、生きがいを持って生活していく姿を目の当たりにすることで「感動」し、結果として本人や家族の方から「感謝」されるという、大変素晴らしい仕事であることを日々伝え続けています。

しかし、介護の素晴らしさだけを伝えても実際の介護の現場では通用しないことも重々承知しています。一昔前の介護の仕事は、お風呂に入れたり、食事の手伝いをし、オムツを換えていれば「介護」と思われていましたが、現在、そして未来、介護者に要求されることはケアマネジメント能力です。一人の高齢者をあらゆる角度から観察し、分析、考察し生命の終焉を迎えるまで、いかに楽しく、生きがいを持って自主的に過ごしていただくかを考えていくことが、介護者の最大の役割なのです。そのために最も重要なことは、「考える」ということだと思います。そして、最近の学生に一番不足していることが、この「考える力」だと感じます。「考える」ということは「悩む」ことではありません。何故という「疑問」を持つこと、もしかしたら「想像」すること、そして時には奇抜な「発想」をすることです。

21年度より、新カリキュラム

がスタートしましたが、試行錯誤の中一年が過ぎようとしています。この一年を振り返り痛切に感じたことは、やはり「考える力」の不足でした。さまざまな創意工夫を凝らして授業案を練るが、社会人経験者を含め新卒者には特に「考える力」に必要な「基礎学力」が低下していることが否めない状況でした。そこで、試験的に「介護の基本」という1教科ではありますが、前期の半年間は専門的な授業は一切実施せず、「基礎学力」の向上のための期間とし、「考える力」を向上することを主眼とした授業を展開しました。まず第一に導入として、介護に興味を持たせる授業、第二に国語力を強化する授業、そして最後に「考える」という授業を展開しました。

主体的に「もっと学びたい」と

いう気持ちを第一に優先し、今までの教育にありがちな「やらされた感」がたっぷりの外発的動機付けではなく、「やりたい感」たっぷりの内発的動機付けの授業を意識して展開した結果、徐々にではありますが学生たちの姿勢、表情など反応に変化が見られてきました。提示した課題について、何度となく添削を繰り返すうちに、学生たちは自ら、積極的に「見てほしい」「聞いてほしい」といった言動が多く観られるようになってきました。私としては、まず最初の一步が踏み出せたような気がしています。

新年を迎え、また新たな試行錯誤の日々が始まりますが、この繰り返しの中から、学生たち主体の「よりよき学び」の方法を追及していきたいと思います。



ニジン骨格に糖が結合した配糖体である。フェノール性水酸基を持っているため、液胞内のpH、金属イオン、隣接分子などの影響を受けやすい。なかには花の色を安定に保つために色素が超分子構造をとる場合もある。ツクサの青色色素は水洗いするときれいに消えてしまうので、友禅の下絵描きにも利用されているが、液胞では6個のアントシアニン成分と6個のフラボン成分とが2個のマグネシウムイオンを中心にして自己会合した超分子金属錯体を保っている。ヤグルマギク、青色サルビア、ネモフィラなど花の種類によって色素配糖体の構成成分も少しずつ異なり、金属イオンも異なる。植物も種の生存をかけて知恵を絞っている。アジサイのガク片は、

発色団としてのアントシアニン、アルミニウムイオンの有無、助色素のキナ酸誘導体、液胞pHとの絶妙なバランスにより七変化する。

春先に咲く桜と紅梅はいずれもバラ科サクラ属で、花にはアントシアニンが含まれている。アントシアニンは、アミノ酸のチロシンやフェニルアラニンから数多くの酵素反応を経て、生合成される。幹や枝に色素をしっかりと貯え、葉をつけるより先に花を咲かせるべく、春を待っている。木々の準備は周到である。草木染めで自然の桜色や紅梅色を出したければ、開花前の枝や樹を炊き出して、花になる命をもらわなければならない。

自然の景色は絶えず変化している。草木は季節の

移り変わりを教えてくれる。私たちは自然の息づかいに目をとめ、微妙な彩りの変化に心をときめかせる。自然は美の創造のお手本である。



マスター ↑↓to アーティスト



【第8回】

<「拘^(こだわ)り」を
持たない>

伊藤孝子 音楽学部
音楽文化創造学科
音楽療法コース 講師

(いとう たかこ)

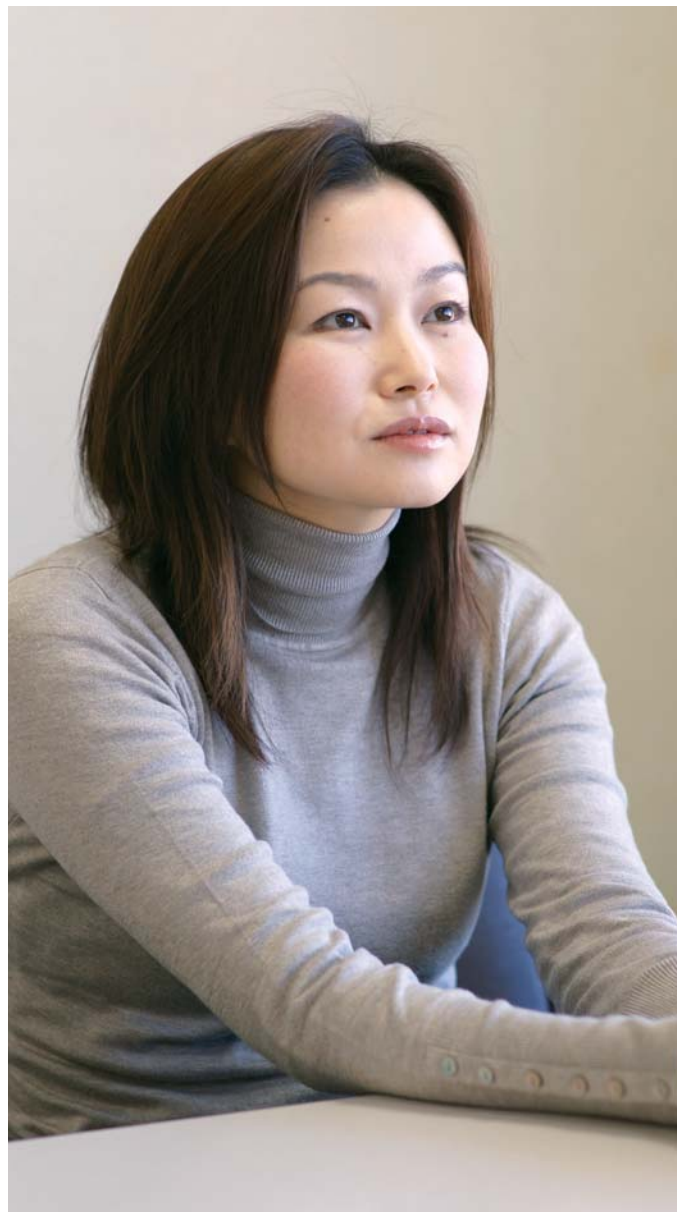
1974年 広島県生まれ

1998年 広島大学教育学部音楽教育学専修卒業

2000年 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了

2001年 広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期退学

音楽が感情に与える影響について研究を行う。障害児を対象とした音楽療法の実践に携わり、広島心理教育相談室音楽療育部（代表：松原まゆみ氏）にて子どもを対象とした音楽療法実践の指導を受ける。現在、名古屋芸術大学音楽療法コース卒業生とともに、音楽療法グループ「マイエ」を立ち上げ活動中。



【拘る】こだわる ①さわる。さしさわる。さまたげとなる。 ②気にしなくてもいいような些細なことにとらわれる。拘泥する。(広辞苑より) 今でこそ「こだわりの一品」などというように、肯定的な意味で使われることの多い「こだわり」という言葉。本来の意味は、些細なことに心が捕らえられて前へ進めない状態を表す言葉だ。『『拘りを持たない』ということかもしれません』。この言葉は、その本来の意味を思い起こさせるものだった。

本を読んだり、研究することが好きだった。幼い頃からピアノのレッスンを受けていたが、音楽の道よりも勉学の道を選んだ。しかし、学生時代、教育学部という枠の中で、自分が教鞭に立ち生徒に教えていく…、そのイメージに漠然とした不安を持っていた。そんな就職と将来に思い悩む学生に転機が訪れ

た。音楽療法の現場を垣間見たことだった。

「初めて見た世界でした。重度の障害児、子供さんだったんですけど、その子にその場で、動きや声に合わせて即興的に音楽でコミュニケーションをとっていくんです。『へえ一つ』と、驚きましたね」音楽の持つ可能性、そしてライブ感に感嘆した。自分の知らない音楽の世界、本や論文の中だけではわからなかった音楽の可能性が、そこにはあった。言葉を発することのできなかつた、目を合わせることもすらできなかつた子供が、音楽の助けを借りて、活き活きと楽しむ場面に遭遇したのだ。音楽療法士が行う、即興でピアノを弾くことや音楽の使い方など、自分にはとても真似できないと思ったが「面白い」という興味が惹きつけた。

音楽の世界では、音楽と商業主義との関係

について考えさせられることは多いが、音楽そのものの目的やその対象者について問われることはさほど多くはない。自己表現を研鑽することと、より多くのリスナーに受け入れられること、このことが音楽にとって自明の理と考えられる。しかし、音楽療法は、たった一人のための音楽である。音楽療法士が、患者のために奏でるそのための音楽。アートとデザインの関係を思い起こさせられはしないだろうか。

音楽の体をなさず、ただの音だけの場合もある。他者から見れば、場合によっては退屈なものかもしれない。しかし、セラピストとクライアントとの間には、濃厚なコミュニケーションが幾重にも重なり合い共鳴しあう音楽療法の音の世界。「音楽療法の音楽にも表現はあります。それは、自分の表現では



音楽療法室は、さながらおもちゃ箱のよう。音楽療法で用いるあらゆる音の元が詰まっている。打楽器、民族楽器、おもちゃの楽器と、あらゆる音の出るものが集められていて、単純に楽しい。「少しでも患者さんの気を惹けるものと、増えていきました」。学生と一緒に打ち鳴らす姿は楽しい。いっばい。



なくて、相手側の表現であったり、もっと広い意味での音楽外の表現を引き出すこともありますね。いわゆる音楽的な、自分の表現で相手を感動させる、というのではないですね。でも、きっと演奏する方にとっては突き詰めれば、同じことじゃないかと思うんです。相手に自分を伝えられるかということですから。

「学生たちには、自分の好きなことをやっておくことが一番、と勧めています。自分の表現を追求しておいたほうが良いと…、そうじゃないと、いつか心が折れてしまうんですよ」。音楽療法士に職業として向かうことには厳しさもある。多くの人が、自分自身が音楽に救われたことを思い、あるいは、クライアントのために働く療法士の姿に憧れを抱く。その憧れの気持ちは大切なものだが、そ

れ以上に必要なものがあるという。「人の役に立つことだけに自分の存在意義を求めているのは駄目なんです。音楽療法の現場では、相手に拒否されてしまうこともあります。思うようにならないことをたくさん経験することになります。それを超えていかなければなりません。学生の頃によく学び、よく遊び、ときに思うようにならない経験も必要なものだと思います。それらが辛さを乗り越える力になってくれるんです」。精一杯、学び、遊び、自分の音楽を追求する。自分というものの核をしっかりと持っておくことが必要ということだろう。

そして、その上で冒頭の言葉「拘りを持たない」に辿り着く。「フラットな気持ちというか、拘りを待たないように努力すること、ですね。難しいんですけど…。音楽療法をやっ

てきて、クライアントさんやそのお母さん方から学んだことは膨大なんです。経験を積んで、それなりに自分の中で、こういうものだというのできてくるんですけど、そうすることで新たなものを受け入れられなくなる。自分が変化する機会を逃してしまいます。人や、人の創作物から何かを吸収できるように、常に自分の状態を保っておくこと。そうありがたいですね。

苦労もあるが「単純に面白いところがあるんですよ」と穏やかに微笑む。人を対象にするだけに、相手に応じて自分が変わる必要があり、相手から学ぶことは尽きないという。「人を知るための題材に尽きない！」人間への興味に魅了され続けている。

2010年2月～4月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

音楽学部

- 大学院音楽研究科特別演奏会
2月9日(火) 17:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 平成21年度研究生修了演奏会
2月10日(水) 18:00開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 第8回 歌曲のタベ
2月12日(金) 18:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第11回 定期演奏会
2月19日(金) 18:45開演予定
長久手町文化の家 森のホール
入場料:1000円
- 第14回 春のコンサート
ピアノのしらべ
2月20日(土) 17:30開演予定
電気文化会館ザ・コンサートホール
- オペラ公演「小さな魔笛」
2月27日(土) 13:00開演予定
三重県文化総合センター小ホール
- 第37回 卒業演奏会
3月4日(木)・5日(金) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール
- オペラ公演「小さな魔笛」
3月9日(火) 18:00開演予定
岐阜市文化センター小劇場
- 大学院音楽研究科
第12回 修了演奏会
3月10日(水)・11日(木)・12日(金)
3日間とも18:30開演予定
三井住友海上しらかわホール
- オペラ公演「小さな魔笛」
3月13日(土) 14:00開演予定
愛知県立芸術劇場小ホール
- ミュージカル公演「Fairy TalesII」
3月18日(木) 18:30開演予定
3月19日(金) 14:00開演予定
名古屋芸術創造センターホール
入場料:1000円

- 平成21年度 音楽企画(7)
“ザ・ルネサンス21”
3月24日(水) 18:00開演予定
本学東キャンパス3号館音楽講堂ホール
- 名古屋芸術大学オーケストラ
ワークショップ
3月26日(金)・27日(土)
本学東キャンパス2・3号館

美術学部 デザイン学部

- 第37回 卒業制作展
3月2日(火)～7日(日)
愛知県美術館ギャラリー 10:00～
名古屋市民ギャラリー矢田 9:30～
本学西キャンパス 10:00～
※記念講演会
3月7日(日) 14:00～
愛知芸術文化センター 12F
- AO・推薦・地域入試合格者の入学前
スクーリング(卒業制作展見学ツアー)
3月6日(土)
名古屋市民ギャラリー矢田
10:30～(美術学部のみ)
愛知県美術館ギャラリー
13:00～(美術学部・デザイン学部)
(アートクリエイター・美術文化コースは
10:00集合)
- 映像作品上映会(卒業制作・修了制作)
3月6日(土)・7日(日) 18:00開場予定
シネマスコーレ(名古屋市中村区椿町)
- 第14回 大学院修了制作展
デザイン研究科
3月2日(火)～7日(日) 10:00～
愛知県美術館ギャラリー
美術研究科・デザイン研究科
3月9日(火)～14日(日) 9:30～
名古屋市民ギャラリー矢田
- 第6回入学前スクーリング
アートクリエイターコース・
美術文化コース
3月27日(土) 10:00～
本学西キャンパス
- オープンキャンパス(スプリング編)
3月28日(日) 10:00～
本学西キャンパス

人間発達学部

- 幼稚園実習先との懇談会
2月4日(木)
名古屋ガーデンパレス
- 春を呼ぶ音楽の集い
3月2日(火)
本学東キャンパス3号館音楽講堂
- ヨーロッパ教育セミナー
3月3日(水)～13日(土)
ドイツ・フランス
- 新入生合宿セミナー
4月6日(火)・7日(水)
合歓の里(三重県)

大学・大学院

- 卒業式
3月20日(土) 11:00～
中京大学文化市民会館
- 入学式
4月5日(月) 10:00～
西キャンパス体育館

名古屋保育・福祉専門学校

- 入学選考日
2月20日(土)・3月6日(土)
- 進学相談会
2月6日(土)
- 体験入学
3月13日(土) 新学年向け
- 卒業式
3月18日(木)
- 入学式
4月2日(金)

幼稚園(クリエ)

- おんがく会
2月9日(火)・10日(水)
- お楽しみ会
3月2日(火)

- お別れ会
3月11日(木)
- 卒園式
3月15日(月)
- 新入園児体験入園
3月17日(水)
- 終了式
3月23日(火)
- 始業式
4月8日(木)
- 入園式
4月9日(金)

幼稚園(滝子)

- 生活発表会
2月21日(日)
- 一日動物園
2月25日(木)
- 新入園児一日入園
2月26日(金)
- ひなまつり
3月3日(水)
- お別れ会
3月10日(水)
- 修了証書授与式
3月17日(水)
- 終業式
3月23日(火)
- 入園式
4月8日(木)
- 始業式
4月9日(金)
- 親子遠足
4月28日(水)

編集後記

学生の主体性の向上や幅広い視野・能力の育成をめざして、様々なテーマや場所を設定した学外授業が行われています。今回はこの学外授業を特集し、その一例を紹介しました。講義や演習で得た知識を社会の現場で実習見聞することにより、学生にとっては貴重な体験となっているようです。

「クローズアップ! NUA STUDENT」は、音楽学部の学生を取り上げました。音楽ビジネス・ステージマネジメントコースの渥美さんは、友人はだしのプロデューサーとして活躍しています。また、音楽教育コースの野呂さんは、先生をめざして頑張っています。

「トビックス」では、秋の恒例行事「芸大祭」と生涯学習公開講座の一例を取り上げました。また、河

村名古屋市長の発案で始まった「ナゴヤまちかどアンサンブル」や、昨年本学で行われたガラス教育機関の関係者が交流を図り、情報交換をする場であるガラス教育機関合同会議「GEN (Glass Education Network)」の特別レクチャー・吹きガラスデモストレーション・学生展など一連の行事を取材しました。

デザイン学部では、特別客員教授河野英一氏のワークショップ「アルファベットについて文字のつくり」などを取り上げました。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。
geibun@nua.ac.jp



大学基準協会の認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2010年2月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326
E-mail geibun@nua.ac.jp